

## 第 25 回丸亀城石垣崩落対策本部会議録

1 開催日時 令和 2 年 4 月 2 0 日（月）午前 9 時 5 0 分～午前 1 0 時 0 5 分

2 開催場所 本館 3 階「特別会議室」

### 3 議 事

#### (1)現況写真

- ・現場の定点写真。今は作業をしていないので、ブルーシートで雨による侵食を防いでいる状況。

#### (2)P R 館運営小会議の成果

- ・資料館のように企画展示等を行い、建物外でその内容をアピールしてはどうかとの提案について、過去の石垣修理報告展などの企画を考えたい。
- ・「よみがえる丸亀城－丸亀歴史体感アプリー」が稼動するパソコンを修理して活用してはどうかとの提案について、パソコンの修理金額にもよるが、できれば活用したい。

#### (3)三の丸クラックの出現と対処方針

- ・報告書を作成した。内容はクラック発見の経緯、専門部会における検討・協議、クラックの特徴と発生原因を整理したもの。
- ・クラック対処方針のまとめとして、石垣崩落復旧整備事業において埋没石垣は原位置に残し復旧する方針で進めてきたが、クラックの出現により方針を変更せざるを得なくなった。委員の了承を得て、安全で確実な施工方法を採用し、クラック前面の土を取り除き、残せるものは必ず残すという方針とした。

#### (4)三の丸石垣解体に伴う文化財調査

- ・内容は前回の対策本部会で説明したものと同一。明日の特別委員会報告事項なので資料を添付している。

#### (5)石樋関連の発掘調査と地中レーダ探査

- ・石樋の調査をするにあたり事前調査としてレーダ地中探査を実施。埋蔵状況を調べた結果、地表面から 1 メートル前後の深度を中心に、密度の異なる物体があった。特に西側調査区では、その後の発掘調査で明らかとなった石樋、枡等を示す反応があり、調査手法の一定の有効性が確認できた。

(6)令和2年度の事業予定

- ・令和元年度（繰越）業務委託が2ヵ月遅れている。クラック対処方針をまとめる作業が発生し、また、鹿島建設本社がコロナウイルス感染拡大防止のため在宅勤務となり設計業務が遅れたことによるもの。同じく工事は半月ほど遅れる。
  - ・鹿島建設が全国的に工事を5/6まで中断すると決定したことを受けて、クラックの掘削は5/7から再開の予定としている。
  - ・コロナ関係で工事中断の申し出があった場合は配慮するよう国土交通省から通知があったので認めるが、工期に遅れが出ないように申し入れる。
  - ・令和2年度においても2ヵ月の遅れが生じる予定。
- 工程の中でスタートが2ヵ月遅れているのに、終わりが3ヵ月延びるような工程になっているのはなぜか。（市長公室長）
- ・グラウンドアンカーの詳細図面が詰められていない等あるが、見直しを行い、少しでも短縮できるようにしたい。
- 2ヵ月遅れを1ヵ月遅れにする事例はあるが、延びるのはあまり聞いたことがない。特別な事情があれば。
- ・鹿島建設に確認し、できるだけ工期を短縮できるようにしたい。

4 出席状況

(1) 本部構成者（第3条）

職	氏名	出欠
市長	梶 正 治	○
副市長	徳 田 善 紀	○
教育長	金 丸 眞 明	×
モーターボート 競走事業管理者	大 林 諭	○
市長公室長	横 田 拓 也	○
総務部長	栗 山 佳 子	○
健康福祉部長	宮 本 克 之	○
市民生活部長	小 山 隆 史	○
都市整備部長	吉 本 博 之	○
産業文化部長	山 地 幸 夫	○
ボートレース 事業局次長	矢 野 浩 三	○
教育部長	石 井 克 範	○
消防長	田 中 道 久	○
議会事務局長	渡 辺 研 介	○

(2) 関係職員

市長公室職員課長	井 上 孝 敏
市長公室秘書政策課長	窪 田 徹 也
市長公室秘書政策課副課長	谷 本 智 子
市長公室秘書政策課政策推進担当長	宇 野 大志郎
市長公室秘書政策課主任	大 川 智
総務部財務課長	宮 西 浩 二

(3) 事務局

教育部文化財保存活用課長	七 座 武 史
教育部文化財保存活用課副課長	東 信 男
教育部文化財保存活用課丸亀城管理室長	上 甲 育 司
教育部文化財保存活用課丸亀城管理室主査	真 鍋 和 江